

令和2年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	愛知県		市町村類型	I-O	指定団体等の指定状況		区分		令和2年度(千円)	令和元年度(千円)	区分		令和2年度(千円・%)	令和元年度(千円・%)				
					財政健全化等	×	繰入総額	30,157,596			24,303,495	実質収支比率			5.4	5.2		
市町村名	新城市		地方交付税種地	1-2	財源超過	×	繰出総額	29,218,593	23,362,711	経常収支比率	92.0	91.3						
					首都	×	繰入歳出差引	939,003	940,784	(※1)	(96.5)	(95.9)						
人口	令和2年国調(人)	44,355	産業構造(※5)	近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	129,909	194,394	標準財政規模	14,924,338	14,316,782							
	平成27年国調(人)	47,133		中部	○	実質収支	809,994	746,390	財政力指数	0.57	0.57							
	増減率(%)	-5.9		過疎	○	単年度収支	62,704	-104,271	公債費負担比率	14.6	14.5							
住民基本台帳人口(※7)	令03.01.01(人)	45,245	区分	平成27年国調	平成22年国調	低開発	×	積立金	78,898	1,586	健全化判断比率							
	うち日本人(人)	44,218		2,066	2,217	指数表選定	○	積立金取崩し額	335,116	528,612	連結実質赤字比率							
	令02.01.01(人)	46,029		8.6	8.7	第1次												
	うち日本人(人)	44,971		9.096	10.196													
	増減率(%)	-1.7		37.9	40.0	第2次												
	うち日本人(%)	-1.7		12.831	13.067													
面積(km ²)	499.23		第3次	53.5	51.3	基準財政収入額	6,869,136	6,602,016	資金不足比率(※4)									
人口密度(人/km ²)	89		標準財政需要額	12,310,004	11,596,209	標準財政需要額等	8,682,956	8,406,231										
世帯数(世帯)	16,633		経常経費充当一般財源等	13,961,969	13,603,896	経常経費充当一般財源等	13,961,969	13,603,896	実質公債費比率	6.6	6.0							
			繰入一般財源等	18,296,417	17,424,882	繰入一般財源等	18,296,417	17,424,882	将来負担比率	62.6	50.7							
職員の状況																		
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	28,928,973	28,324,273	うち公的資金	23,539,111	23,397,375					
	市区町村長	1	8,330	一般職員	636	1,853,304	2,914	債務負担行為額(支出予定額)	1,117,950	1,311,473	収益事業収入	-	-					
	副市区町村長	1	7,750	うち消防職員	149	430,312	2,888	土地開発基金現在高	600,000	600,000	積立金現在高	1,861,375	2,117,593					
	教育長	1	6,800	うち技能労務職員	12	31,620	2,635	財政調整基金	1,861,375	2,117,593	減債基金	731,028	729,977					
	議会議長	1	4,890	教育公務員	4	16,064	4,016	その他特定基金	2,737,018	2,709,815								
	議会副議長	1	4,090	臨時職員	-	-	-											
	議会議員	16	3,720	合計	640	1,869,368	2,921											
				ラスバイレス指数			98.6											
	一般会計等の一覧																	
	項番	会計名	事業会計の一覧		項番	会計名	公営企業(法適)の一覧		項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧		項番		組合等名	関係する一部事務組合等一覧	項番	団体名
(1)	一般会計	(2)	国民健康保険事業特別会計	(5)	水道事業会計	(9)	宅地造成事業特別会計	(10)	愛知県後期高齢者医療広域連合(一般会計)	(15)	新城市土地開発公社	(10)	愛知県後期高齢者医療広域連合(一般会計)	(15)	新城市土地開発公社	(16)	農林業公社しんしろ	
		(3)	後期高齢者医療特別会計	(6)	工業用水道事業会計			(11)	愛知県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	(16)	農林業公社しんしろ	(11)	愛知県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	(17)	つくで手作り村			
		(4)	国民健康保険診療所特別会計	(7)	病院事業会計			(12)	新城北股楽交通災害共済組合			(12)	新城北股楽交通災害共済組合					
				(8)	下水道事業会計			(13)	東三河広域連合(一般会計)			(13)	東三河広域連合(一般会計)					
								(14)	東三河広域連合(介護保険事業特別会計)									

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、令和元年度は「減収補償(特例分)」及び「臨時財政対策債」を、令和2年度は「減収補償(特例分)」 「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況（市町村）

歳入の状況（単位 千円・％）					地方税の状況（単位 千円・％）					歳出の状況（単位 千円・％）									
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分		収入済額	構成比	超過課税分	目的別歳出の状況（単位 千円・％）									
					普通税	法定普通税				議会費	総務費	民生費	衛生費	労働費	農林水産業費	商工費	土木費	消防費	教育費
地方税	7,157,346	23.7	6,892,787	47.6	普通税	6,877,815	96.1	89,144	議会費	188,039	0.6	-	-	-	-	-	-	-	188,039
地方譲与税	347,595	1.2	347,595	2.4	法定普通税	6,877,815	96.1	89,144	総務費	7,811,854	26.7	392,691	2,616,950	3,849,202	82,847	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835
利子割交付金	5,903	0.0	5,903	0.0	市町村民税	2,659,194	37.2	89,144	民生費	6,407,993	21.9	231,651	2,616,950	3,849,202	82,847	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835
配当割交付金	34,562	0.1	34,562	0.2	個人均等割	86,123	1.2	-	衛生費	2,932,963	10.0	75,001	2,645,393	2,645,393	82,847	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835
株式等譲渡所得割交付金	32,577	0.1	32,577	0.2	所得割	2,195,880	30.7	-	労働費	83,681	0.3	1,077	82,847	82,847	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	128,628	1.8	-	農林水産業費	1,253,538	4.3	466,887	652,482	652,482	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835	
地方消費税交付金	1,027,661	3.4	1,027,661	7.1	法人税割	248,563	3.5	89,144	商工費	1,532,811	5.2	472,020	1,143,521	1,143,521	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835	
ゴルフ場利用税交付金	61,251	0.2	61,251	0.4	固定資産税	3,798,300	53.1	-	土木費	1,981,467	6.8	1,381,981	813,606	813,606	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	3,774,104	52.7	-	消防費	1,488,060	5.1	104,110	926,570	926,570	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835	
自動車取得税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	169,700	2.4	-	教育費	2,680,715	9.2	1,192,417	1,717,667	1,717,667	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	250,621	3.5	-	災害復旧費	149,716	0.5	-	50,302	50,302	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835	
自動車税環境性能割交付金	50,260	0.2	50,260	0.3	鉱産税	-	-	-	公債費	2,707,756	9.3	-	-	-	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835	
法人事業税交付金	42,745	0.1	42,745	0.3	特別土地保有税	-	-	-	請支出金	-	-	-	-	-	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835	
地方特例交付金	63,068	0.2	63,068	0.4	法定外普通税	-	-	-	前年度繰上充用金	-	-	-	-	-	466,887	1,143,521	1,381,981	2,675,835	
個人住民税減収補填特例交付金	35,282	0.1	35,282	0.2	目的税	279,531	3.9	-	歳出合計	29,218,593	100.0	4,317,835	17,357,414	17,357,414	4,317,835	17,357,414	4,317,835	17,357,414	
自動車税減収補填特例交付金	23,804	0.1	23,804	0.2	法定目的税	279,531	3.9	-											
軽自動車税減収補填特例交付金	3,982	0.0	3,982	0.0	入湯税	14,972	0.2	-											
地方交付税	6,193,026	20.5	5,537,923	38.3	事業所税	-	-	-											
普通交付税	5,537,923	18.4	5,537,923	38.3	都市計画税	264,559	3.7	-											
特別交付税	655,103	2.2	-	-	水利地益税等	-	-	-											
震災復興特別交付税	-	-	-	-	法定外目的税	-	-	-											
（一般財源計）	15,015,994	49.8	14,096,332	97.4	旧法による税	-	-	-											
交通安全対策特別交付金	8,608	0.0	8,608	0.1	旧法による税	-	-	-											
分担金・負担金	491,096	1.6	-	-	合計	7,157,346	100.0	89,144											
使用料	189,655	0.6	-	-															
手数料	98,380	0.3	19,311	0.1															
国庫支出金	7,238,373	24.0	-	-															
国有提供交付金（特別区財調交付金）	-	-	-	-															
都道府県支出金	1,469,904	4.9	-	-															
財産収入	44,228	0.1	12,030	0.1															
寄附金	27,595	0.1	-	-															
繰入金	554,820	1.8	-	-															
繰越金	940,784	3.1	-	-															
諸収入	871,859	2.9	338,356	2.3															
地方債	3,206,300	10.6	-	-															
うち減収補填債（特例分）	-	-	-	-															
うち猶予特例債	-	-	-	-															
うち臨時財政対策債	703,400	2.3	-	-															
歳入合計	30,157,596	100.0	14,474,637	100.0															

区分		令和2年度	令和元年度
徴収率	現・計	98.3	96.3
	(%)	97.8	96.3
	年	98.5	96.0

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	2,701,234	実質収支	33,208
病院	880,958	再差引収支	13,283
上水道	411,468	加入世帯数(世帯)	6,224
下水道	327,624	被保険者数(人)	9,816
介護サービス	33,131	被保険者	99
国民健康保険	347,417	保険税(料)収入額	-
その他	700,636	1人当り	311

区分		令和2年度	令和元年度
議会費	188,039	0.6	-
総務費	7,811,854	26.7	392,691
民生費	6,407,993	21.9	231,651
衛生費	2,932,963	10.0	75,001
労働費	83,681	0.3	1,077
農林水産業費	1,253,538	4.3	466,887
商工費	1,532,811	5.2	472,020
土木費	1,981,467	6.8	1,381,981
消防費	1,488,060	5.1	104,110
教育費	2,680,715	9.2	1,192,417
災害復旧費	149,716	0.5	-
公債費	2,707,756	9.3	-
請支出金	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-
歳出合計	29,218,593	100.0	4,317,835

区分		令和2年度	令和元年度
議会費	188,039	0.6	-
総務費	7,811,854	26.7	392,691
民生費	6,407,993	21.9	231,651
衛生費	2,932,963	10.0	75,001
労働費	83,681	0.3	1,077
農林水産業費	1,253,538	4.3	466,887
商工費	1,532,811	5.2	472,020
土木費	1,981,467	6.8	1,381,981
消防費	1,488,060	5.1	104,110
教育費	2,680,715	9.2	1,192,417
災害復旧費	149,716	0.5	-
公債費	2,707,756	9.3	-
請支出金	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-
歳出合計	29,218,593	100.0	4,317,835

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率(市町村)

令和2年度 豊知県新城市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	30,253	29,314	939	809	555	28,929	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							

(3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

令和2年度

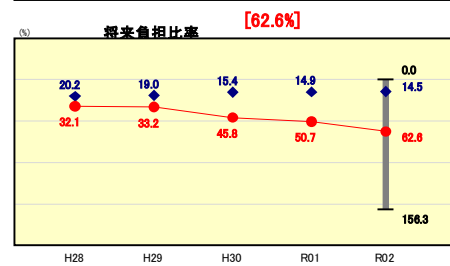
愛知県新城市

人口	45,245	人(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	44,218	人(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	499.23	km ²	実質公債費比率	6.6	%
歳入総額	30,157,596	千円	将来負担比率	62.6	%
歳出総額	29,218,593	千円	市町村類型	H28 I-O H29 I-O H30 I-O	
実質収支	809,094	千円	(年度毎)	R01 I-O R02 I-O	
標準財政規模	14,924,338	千円			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

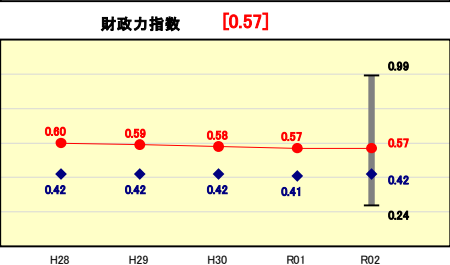
将来負担の状況



類似団体内順位 27/35 全国平均 24.9 愛知県平均 28.0

将来負担比率の分析欄
 将来負担額については市債残高が増加したこと、将来負担額に充当可能財源等については財政調整基金を取り崩したことなどにより前年度より11.9ポイント増加した。なお、算定初年度の平成19年度には将来負担比率が116.3%であったが、財政健全化に努めた結果、53.7ポイントの改善を図ることが出来ている。
 今後は、風来総合支所等整備事業や学校給食施設改築事業など旧合併特例事業債を中心に大型の市債発行が予定されているが、市債の発行については必要性を精査し、また財政調整基金を取り崩さない財政運営を図り、将来負担の抑制に取り組んでいく。

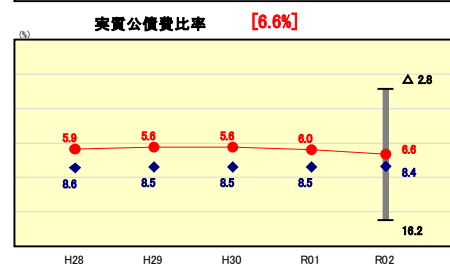
財政力



類似団体内順位 6/35 全国平均 0.51 愛知県平均 0.95

財政力指数の分析欄
 前年度と同ポイントではあるが、類似団体平均を上回っている状況である。根幹的な自主財源である地方税の大幅な伸びは見込めず、また合併算定替えによる普通交付税も減少が見込まれる。さらに、公共施設等総合管理計画を着実に進め公共施設の維持・修繕に努めなければならない。
 このような背景を踏まえ、平成30年度に策定した新城市財政健全化推進プランに基づき自主財源の確保に努めるとともに、事務効率化等の歳出見直しや公共施設等管理適正化に取り組んでいく。

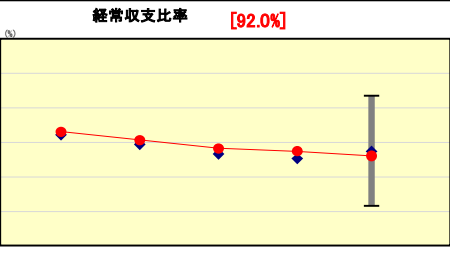
公債費負担の状況



類似団体内順位 10/35 全国平均 5.7 愛知県平均 4.1

実質公債費比率の分析欄
 実質公債費比率は前年度に比べ0.6ポイント上昇したが、類似団体平均を1.8ポイント下回っている。算定初年度の平成18年度には15.7%であったが、財政健全化に努めた結果、9.1ポイントの改善を図ることが出来ている。
 今後も、市債を計画的に発行していくとともに、財源確保に努め、市債に大きく依存しない財政運営を進めていく。

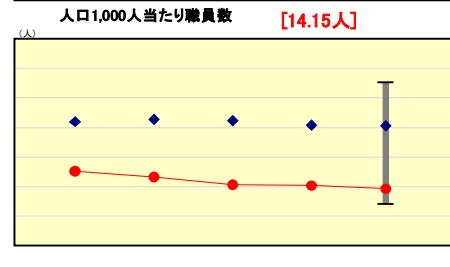
財政構造の弾力性



類似団体内順位 18/35 全国平均 93.1 愛知県平均 91.6

経常収支比率の分析欄
 経常収支比率は92.0%となり、類似団体平均を上回り平成30年度から90%を超過し続けている。経常経費充当一般財源等は前年度と同水準を維持したが、臨時財政対策債が折半対象財源不足解消に伴い発行額が減少したことが経常収支比率上昇に影響しているものと分析している。
 新型コロナウイルス感染症拡大の影響も重なり地方税の大幅な伸びは見込めず、また合併算定替えにより普通交付税も減少が見込まれ、経常一般財源等は減少する見込みである。財政構造の硬直化を抑制するため、今後とも事務事業の見直しを進め、経常経費の削減に努める。

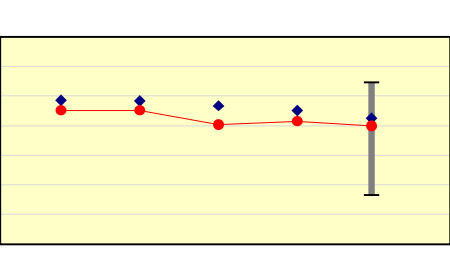
定員管理の状況



類似団体内順位 32/35 全国平均 8.16 愛知県平均 8.41

人口1,000人当たり職員数の分析欄
 近隣町村の常備消防業務を受託していること、市内に2箇所の民間小規模保育所はあるものの、それ以外の15箇所のこども園を市が直営で運営していること等の特殊要因により、類似団体平均を大きく上回っている。今後は第4次定員適正化計画に基づき職員数の適正化に引き続き努めていく。

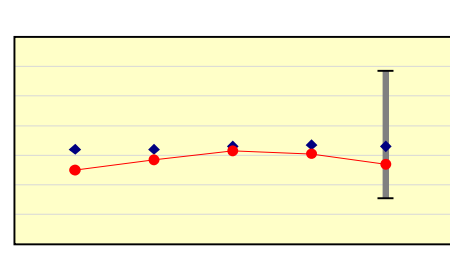
人件費・物件費等の状況



類似団体内順位 22/35 全国平均 145,817 愛知県平均 138,307

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 人口1人当たり人件費・物件費等決算額は、前年度に比べ8,032円増え、依然として類似団体平均を上回っている状況である。
 人件費については、市内15こども園を直営で運営していることや、近隣町村からの消防業務受託など特殊要因が影響しているが、第4次定員適正化計画に基づき職員数の適正化に引き続き努め、人件費の抑制を図っていく。物件費についても、広大な市域に点在する公共施設について廃止、譲渡などの整理を継続し、更なる経費の削減に努める。

給与水準 (国との比較)



類似団体内順位 27/35 全国市平均 98.8 全国町村平均 96.3

ラสบayレス指数の分析欄
 職員構成の変動などにより前年度より0.7ポイント増加した。また類似団体平均と比較し1.2ポイント上回っているが、全国市平均と比較すると0.2ポイント下回っている。
 今後は適正な給与水準の維持に努める。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和2年度

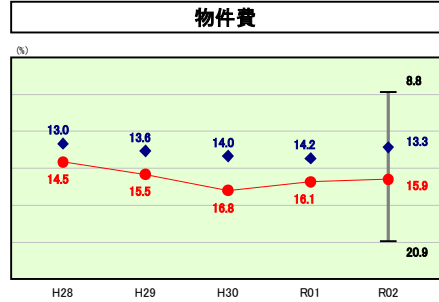
愛知県新城市

経常収支比率の分析

人口	45,245	人 (R3.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	44,218	人 (R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	499.23	km ²	実質公債費比率	6.6	%
歳入総額	30,157,596	千円	将来負担比率	62.6	%
歳出総額	29,218,593	千円			
実質収支	809,094	千円			
標準財政規模	14,924,338	千円	市町村類型	H28 I-O H29 I-O H30 I-O	
地方債現在高	28,928,973	千円	(年度毎)	R01 I-O R02 I-O	



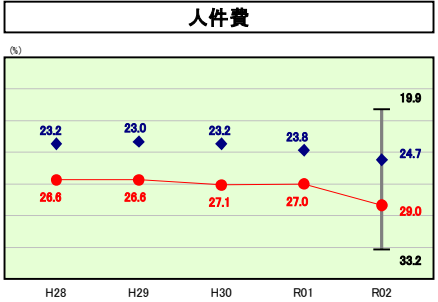
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 31/35 全国平均 14.3 愛知県平均 15.7

物件費の分析欄

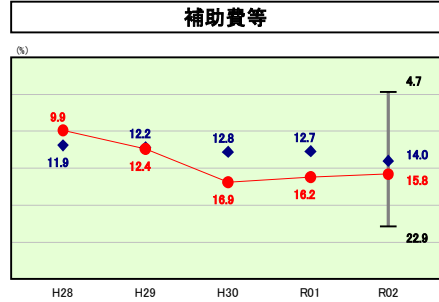
物件費は前年度と比較し0.2ポイント改善したが、類似団体平均を依然として上回っている。市内15こども園を直営で運営していることや、近隣町村からの消防業務受託などの特殊要因が数値を押し上げている面があるが、今後も物件費の抑制策として、広大な市域に点在する公共施設の維持管理経費を削減するため、新城市公共施設等総合管理計画に基づき、市民の理解を得たうえで施設の譲渡・廃止を進めていく。



類似団体内順位 29/35 全国平均 26.8 愛知県平均 27.9

人件費の分析欄

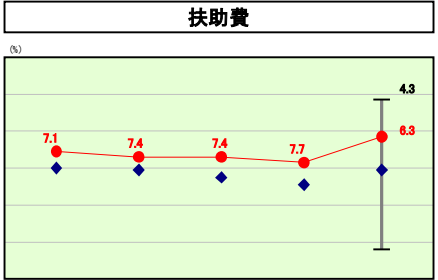
会計年度任用職員制度が始まり前年度と比較し2.0ポイント増加しているが、近隣町村の常備消防業務を受託していること、市内に2箇所の間小規模保育所はあるものの、それ以外の15箇所のこども園を市直営で運営していること等の特殊要因が影響し、人件費は類似団体平均を上回っている。第4次定員適正化計画に基づき職員数の適正化に引き続き努め、人件費の抑制を図っていく。



類似団体内順位 23/35 全国平均 10.7 愛知県平均 11.4

補助費等の分析欄

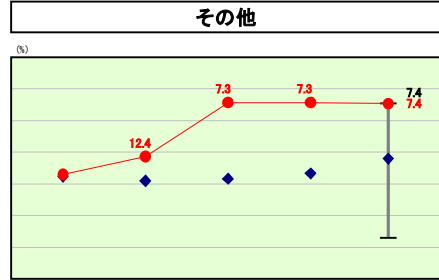
平成30年度に介護保険事業が東三河広域連合に統合されたことによる介護保険事業特別会計繰出金の性質変更(繰出金から補助費等)により、平成30年度以降は類似団体平均を大きく上回る状況となっている。引き続き補助金等の見直しを行うとともに、企業会計については経営健全化計画等に基づき適正な経営に努めていく。



類似団体内順位 6/35 全国平均 12.4 愛知県平均 13.7

扶助費の分析欄

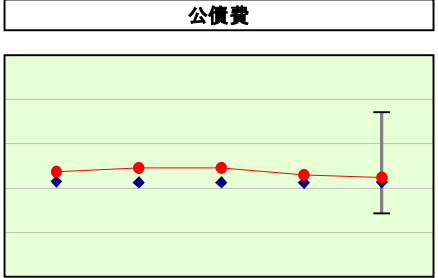
扶助費は前年度と比較し1.4ポイント減少し、類似団体平均を下回っている。扶助費全体では減少しているものの、障害者サービス利用施設の増加とサービス充実に伴う介護給付事業(障害福祉)が年々増加しており、高齢者人口の増加による生活扶助の増加が今後とも考えられる。扶助費の増加は今後も続くことが見込まれるが、引き続き適正な給付事務に努めていく。



類似団体内順位 1/35 全国平均 12.6 愛知県平均 10.7

その他の分析欄

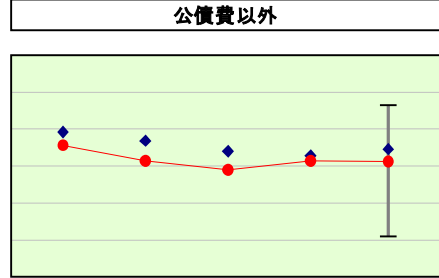
平成30年度に介護保険事業が東三河広域連合に統合されたことによる介護保険事業特別会計繰出金の性質変更(繰出金から補助費等)により、平成30年度以降は類似団体平均を大きく下回る状況となっている。新城市公共施設等総合管理計画に基づき公共施設の統合・譲渡などを進め、施設の維持管理経費を削減するとともに、公営企業の利用者の増加などを図っていく。



類似団体内順位 15/35 全国平均 16.3 愛知県平均 12.2

公債費の分析欄

公債費は類似団体平均を下回っているものの、前年度と比較して0.6ポイントの増加となった。これは市町村合併後継続的に進めてきた大型建設事業に係る地方債償還額の増加によるもので、旧合併特例事業債の発行期限の令和7年度までは当該事業債を活用した大型建設事業が計画されていることから、当面は公債費の増加が続くことが見込まれる。公債費の増加抑制のため、今後も市債の発行については常に必要性や規模などを精査していくこととしている。



類似団体内順位 22/35 全国平均 76.8 愛知県平均 79.4

公債費以外の分析欄

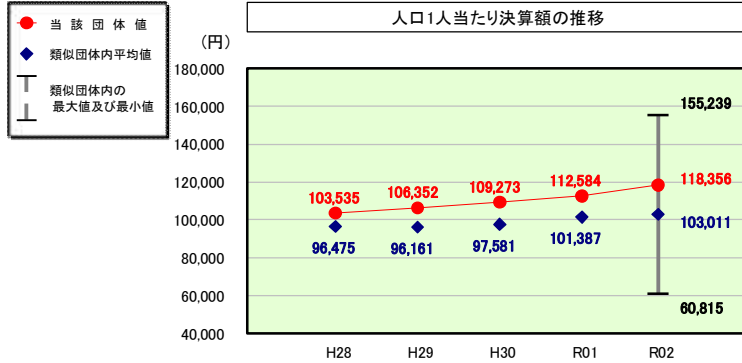
物件費が減少したことにより、前年度と比較し0.1ポイント増加したが、類似団体平均を上回っている状況である。新城市公共施設等総合管理計画に基づき公共施設の統合・譲渡などを進め、施設の維持管理経費を削減するとともに、公営企業などの使用料や保険料の適正化を図っていく。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和2年度

愛知県新城市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

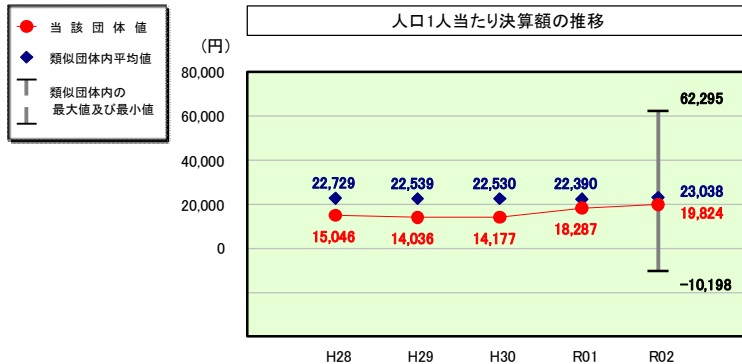
	当該団体決算額		人口1人当たり決算額	
	(千円)	当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	5,443,834	120,319	94,370	▲ 27.5
一部事務組合負担金(補助費等)	3,200	71	9,302	▲ 99.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	1,639	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	4	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	33,131	732	3,374	▲ 78.3
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	194,302	4,294	2,035	111.0
▲退職金	▲ 319,461	▲ 7,061	▲ 7,711	▲ 8.4
合計	5,355,006	118,356	103,011	14.9

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	14.15	9.88	4.27
ラスバイレス指数	98.6	97.4	1.2

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

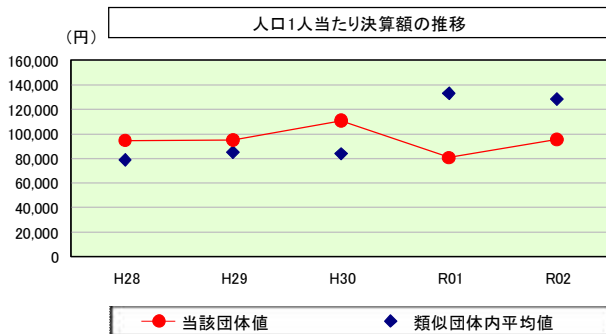


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額		人口1人当たり決算額	
	(千円)	当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額(繰上償還額等を除く)	2,707,756	59,847	65,683	▲ 8.9
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの(年度割相当額)	-	-	9	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	903,933	19,979	17,466	14.4
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	-	-	3,476	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	14,241	315	810	▲ 61.1
一時借入金(同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	2	-
▲特定財源の額	▲ 226,291	▲ 5,001	▲ 2,801	78.5
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 2,502,710	▲ 55,315	▲ 61,607	▲ 10.2
合計	896,929	19,824	23,038	▲ 14.0

※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

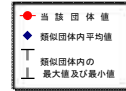
	当該団体決算額(千円)	人口1人当たり決算額			
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)
H28	4,540,820	94,691	20.0	78,864	▲ 3.6
うち単独分	2,792,228	58,227	11.1	46,136	▲ 10.6
H29	4,503,219	95,097	0.4	85,042	▲ 7.4
うち単独分	3,557,769	75,131	29.0	50,806	▲ 18.9
H30	5,182,633	110,832	16.5	83,774	▲ 18.0
うち単独分	4,585,015	98,052	30.5	52,179	▲ 27.8
R01	3,715,301	80,717	▲ 27.2	132,981	▲ 85.9
うち単独分	2,696,847	58,590	▲ 40.2	56,973	▲ 49.4
R02	4,317,835	95,432	18.2	128,523	▲ 21.6
うち単独分	2,799,406	61,872	5.6	56,792	▲ 5.9
過去5年間平均	4,451,962	95,354	5.6	101,837	▲ 6.0
うち単独分	3,286,253	70,374	7.2	52,577	▲ 15.5

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

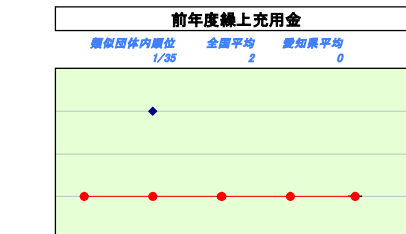
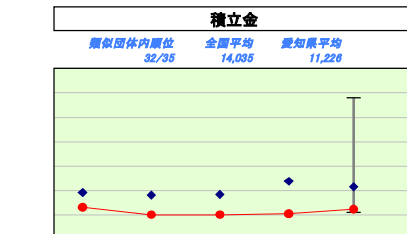
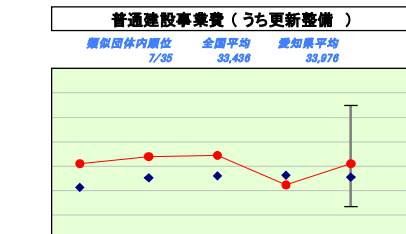
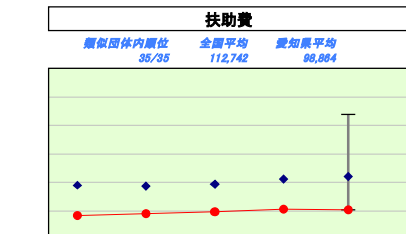
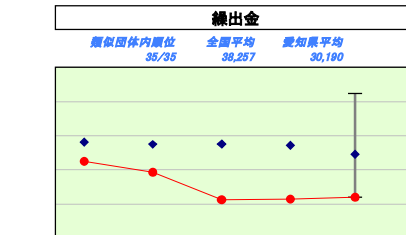
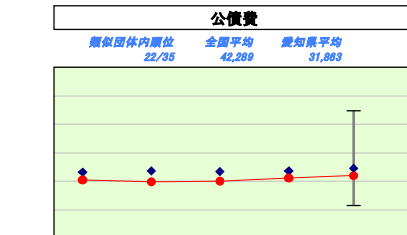
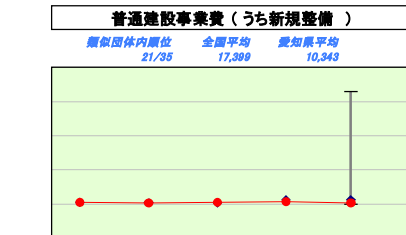
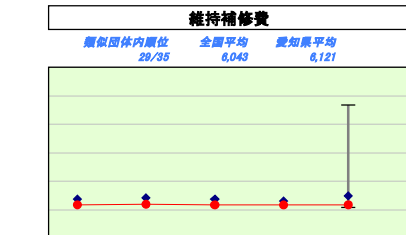
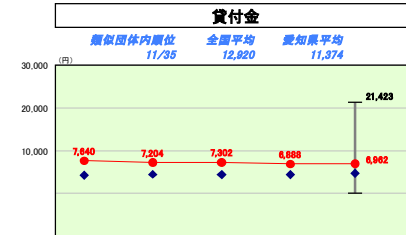
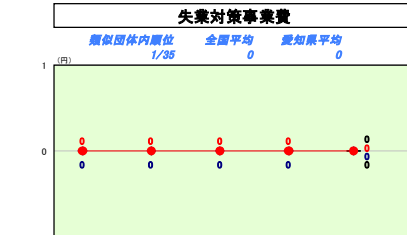
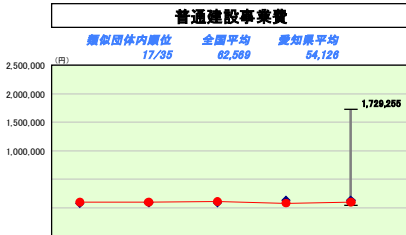
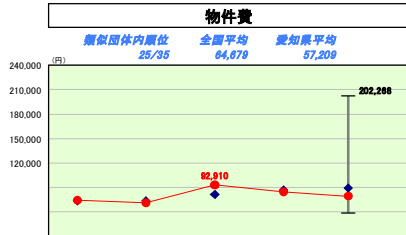
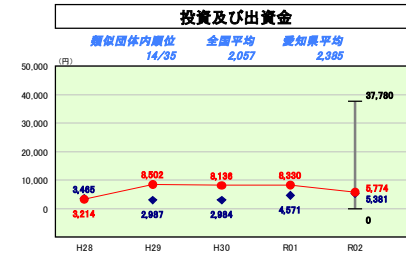
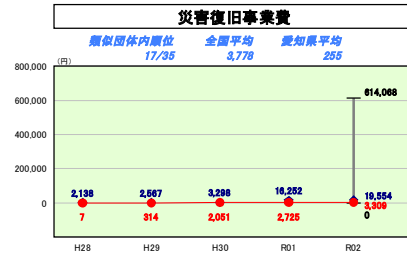
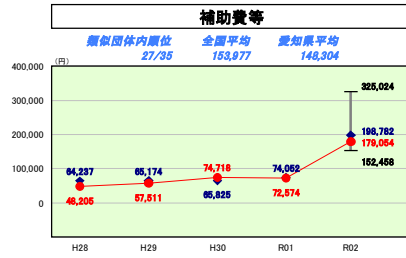
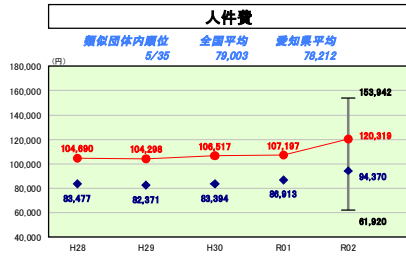
令和2年度

愛知県新城市

人口	45,245 人(※3.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	44,218 人(※3.1.1現在)	連続実質赤字比率	- %
面積	499.23 km ²	実質公債費比率	6.6 %
歳入総額	30,157,596 千円	将来負担比率	82.6 %
歳出総額	29,216,593 千円	市町村類型	H28 I-O H29 I-O H30 I-O H01 I-O
実収支	940,003 千円	(年度毎)	R01 I-O R02 I-O
標準財政規模	14,924,338 千円		
地方債現在高	28,928,973 千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体とする。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析
 経費の経費を見ると、人件費は会計年度任用職員制度により増加する中、人口減少もあり住民一人当たり人件費は13.122円の増加となった。市内15こども園を運営していることや近隣町村からの消防業務受託など特殊要因が影響し、類似団体内順位では上位となっている。扶助費は民生費の社会福祉費が増加したものの一人当たりのコストは778円減少した。公債費は新たに借り入れた地方債は低利であるため利子償還金は減少しているが、旧合併特例事業債を中心に大型事業の起債が続き元金償還金は増加したため、4.243円増加している。
 投資的経費を見ると、普通建設事業のうち新規整備は大型事業が少なかったため13.160円の減少となった。更新設備についてはこども園空調設備整備事業や東庁舎改修事業などにより26.118円増加した。
 その他の経費を見ると、物件費は出先機関を対象にした庁内ネットワーク構築業務の増減などにより4,992円減少したほか、繰出金は平成30年度の介護保険事業の東三河広域連合への統合による介護保険事業特別会計繰出金の性質変更(繰出金から補助費等)が影響し類似団体平均との乖離が生じている。また、投資及び出資金は水道事業における料金統一に伴う遊楽園の減少等により2,556円減少した。
 旧合併特例事業債の発行期限の令和7年度までは当該事業債を活用した大型建設事業が計画されているが、一方で人口減少や高齢化に伴う市税等の減少や普通交付税の合併算定による増分の縮減などによる歳入の減少が予測されることから、経費の削減や公共施設の在り方、事業の見直しなどを含めて、現在の行政サービスを維持しながら財政運営を行うよう、対策を講じる必要がある。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

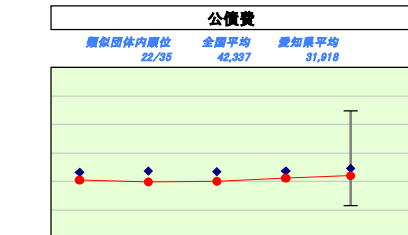
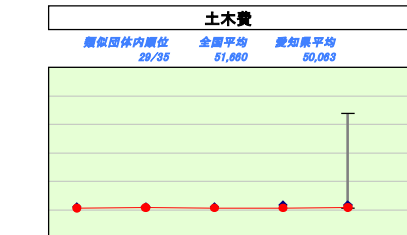
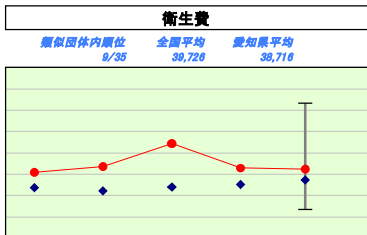
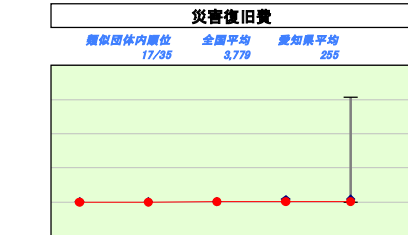
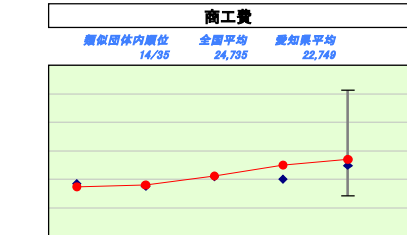
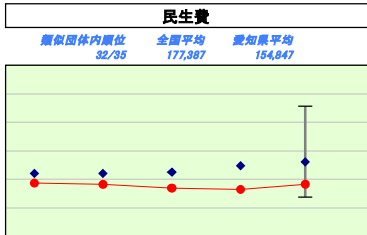
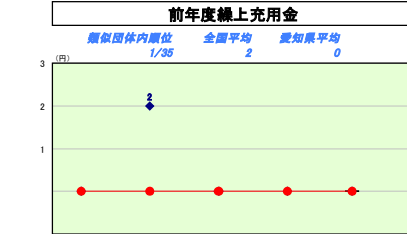
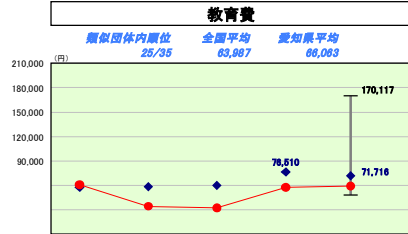
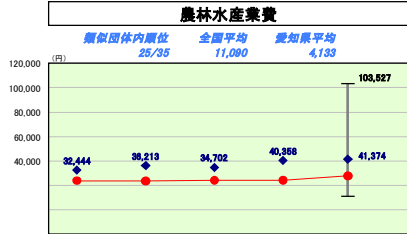
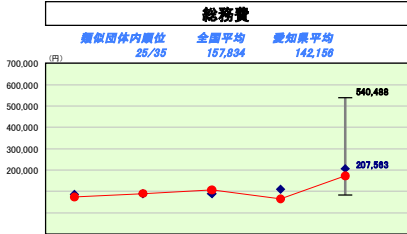
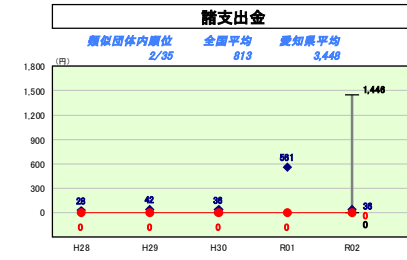
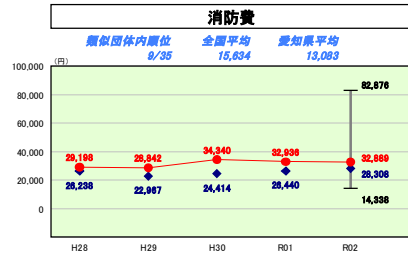
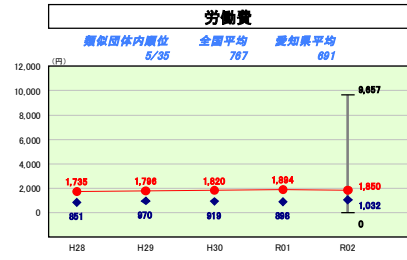
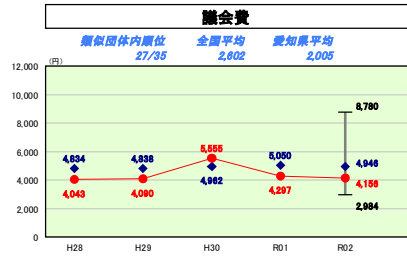
令和2年度

愛知県新城市

人口	45,245 人(国3.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	44,218 人(国3.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	499.23 km ²	実質公債費比率	6.6 %
農産物産額	30,157,596 千円	将来負担比率	82.6 %
農産物輸出額	29,216,593 千円	市町村類型	H28 I-O H29 I-O H30 I-O
実収支	309,094 千円	(年度毎)	R01 I-O R02 I-O
標準財政規模	14,924,338 千円		
地方債現在高	28,928,973 千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



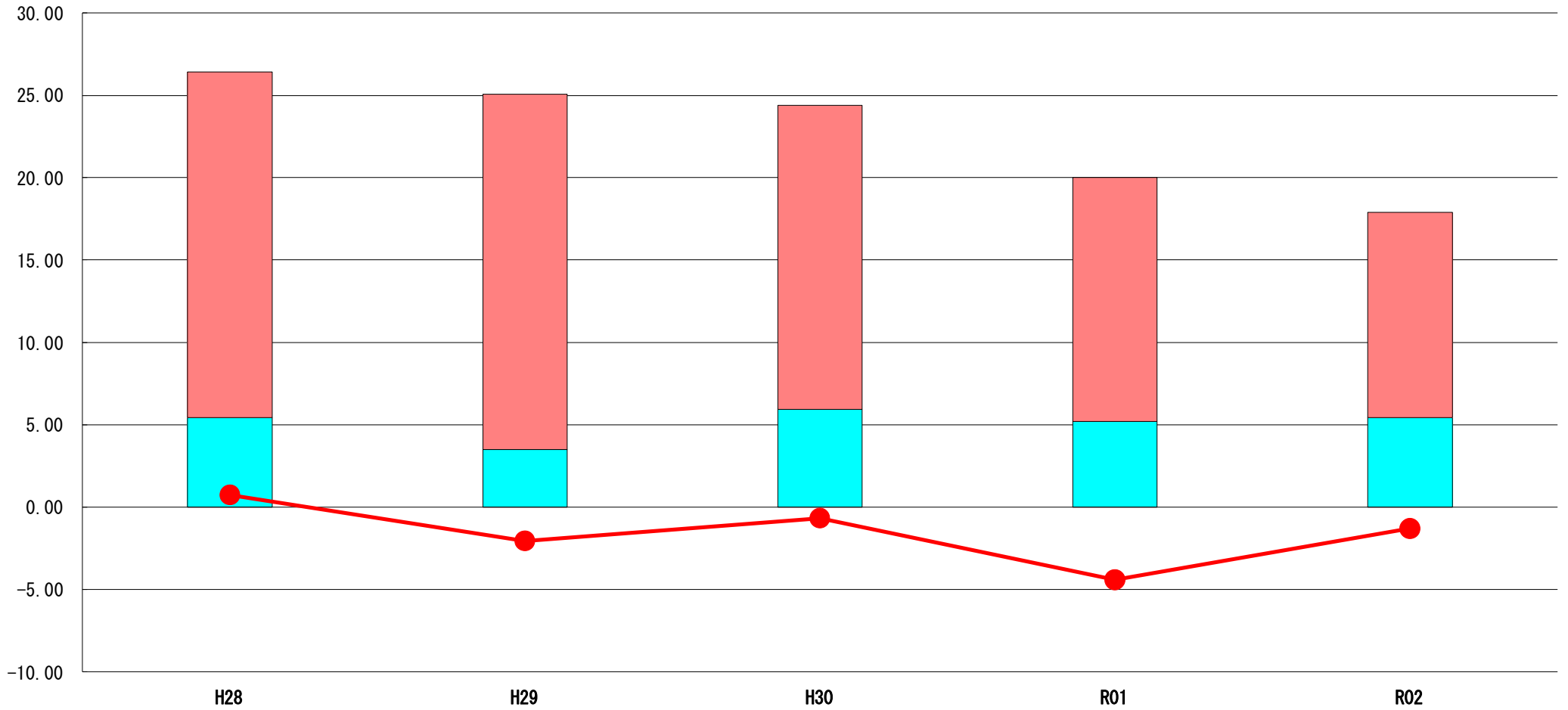
目的別歳出の分析
 増加した要因を見ると、総務費は特別定額給付金給付金や風来総合支所等整備事業などの増加により107,154円増加した。商工費はプレミアム付き商品券負担金や愛知県・市町村新型コロナウイルス感染症対策協力金などにより3,923円の増加となった。また、土木費では道整備交付金道路舗装修繕工事費やJR新城駅エレベーター等設置工事負担金の増により、8,761円増加した。
 一方で減少した要因をみると、衛生費は水道事業会計出資金やクリーンセンター整備事業の減少等により945円減少した。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




令和2年度

愛知県新城市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H28	H29	H30	R01	R02
 財政調整基金残高		21.00	21.59	18.45	14.79	12.47
 実質収支額		5.41	3.47	5.93	5.21	5.42
 実質単年度収支		0.74	▲ 2.05	▲ 0.67	▲ 4.41	▲ 1.30

分析欄

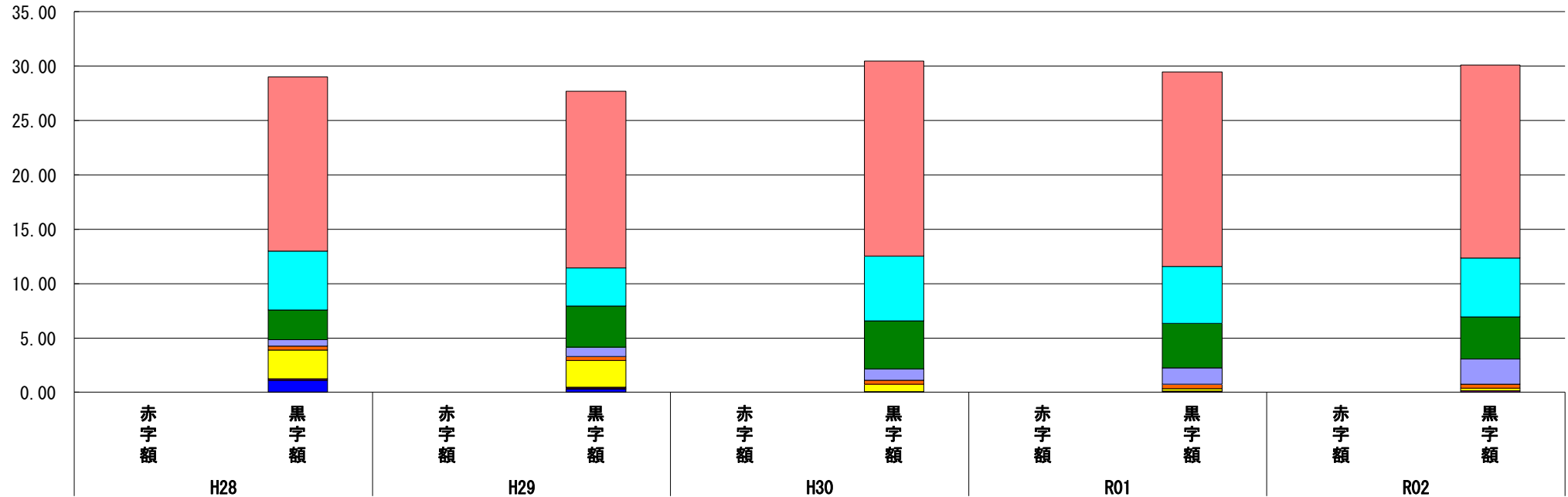
形式収支は前年度と同程度で、実質収支額は0.2ポイント上昇した。財政調整基金については、当初予算において計上した新城インターチェンジ周辺整備事業に係る用地購入費に235百万円、6月補正予算で計上した新型コロナウイルス感染症対策基金を創設する財源として100百万円の取崩しを行っているが、実質単年度収支は前年度対比3.11ポイント上昇した。今後とも財政調整基金を取り崩さない財政運営を図り、将来負担の抑制に取り組んでいく。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和2年度

愛知県新城市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H28	H29	H30	R01	R02
病院事業会計		16.01	16.24	17.91	17.89	17.72
一般会計		5.40	3.47	5.93	5.21	5.42
水道事業会計		2.76	3.81	4.43	4.10	3.85
下水道事業会計		0.59	0.84	1.05	1.49	2.32
工業用水道事業会計		0.36	0.39	0.38	0.41	0.41
国民健康保険事業特別会計		2.62	2.46	0.66	0.22	0.22
後期高齢者医療特別会計		0.12	0.11	0.05	0.11	0.12
国民健康保険診療所特別会計		0.02	0.03	0.02	0.02	0.02
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		1.12	0.33	0.00	0.00	0.00

分析欄

全ての会計で黒字となっている。
 法適用企業では、病院事業会計をはじめ、全ての会計において多少の増減はあるものの、前年度と同水準の比率を維持している。
 公営事業では、国民健康保険事業特別会計、後期高齢者医療特別会計、国民健康保険診療所特別会計においては前年度と同等、もしくはそれ以上の黒字額（実質収支額）を維持した。
 一般会計についても、前年度から若干上昇し黒字額（実質収支額）を維持している。
 算定初年度の平成19年度から黒字を続けており、今後も健全な財政運営、経営を実施し黒字を継続していく。

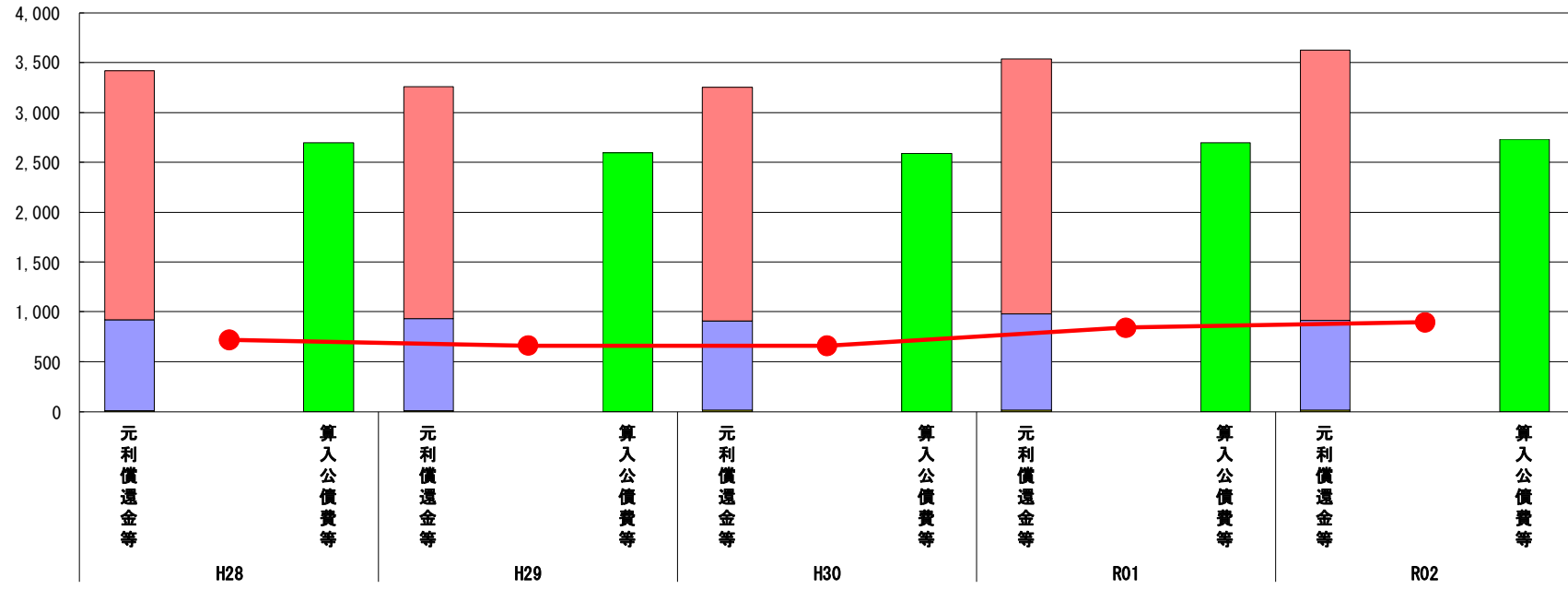
※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和2年度

愛知県新城市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度				
		H28	H29	H30	R01	R02
元利償還金等(A)	元利償還金	2,495	2,328	2,340	2,559	2,708
	減債基金積立不足算定額※2	-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	918	926	895	965	904
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額	6	6	14	14	14
	一時借入金の利息	-	-	-	-	-
算入公債費等(B)	算入公債費等	2,698	2,596	2,587	2,696	2,729
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	721	664	662	842	897

分析欄

地方債の発行が増加しているため元利償還金のうち元金償還金が増加していること、公営企業債の元利償還金に対する繰入金も増加に転じたことから、実質公債費比率の分子は増加した。算入公債費等のうち基準財政需要額に算入される額も増えているが、今後も市債の発行については、必要性や規模などを精査し、同時に本市の財政運営に有利な起債のメニューを選択していく。併せて、公営企業の健全化や財源の確保などにも努めていく。

※1 令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

(百万円)

		年度				
		H27末	H28末	H29末	H30末	R01末
※2 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)	-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額	-	-	-	-	-

分析欄

満期一括償還地方債の償還財源として積み立てた額はない。

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

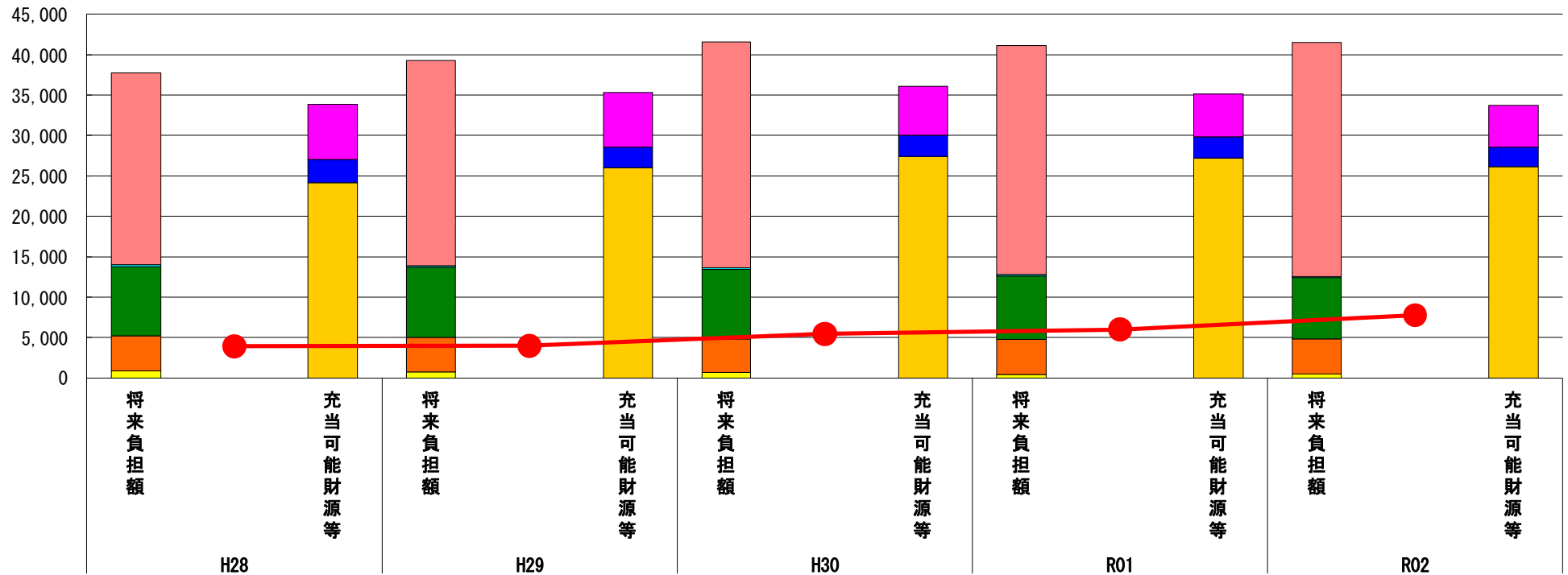
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和2年度

愛知県新城市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H28	H29	H30	R01	R02
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		23,774	25,413	27,923	28,324	28,929
	債務負担行為に基づく支出予定額		201	177	166	154	141
	公営企業債等繰入見込額		8,589	8,694	8,655	7,899	7,626
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		4,378	4,236	4,163	4,280	4,312
	設立法人等の負債額等負担見込額		842	781	661	479	503
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		6,851	6,746	6,052	5,322	5,191
	充当可能特定歳入		2,814	2,554	2,612	2,537	2,403
(A) - (B)	将来負担比率の分子		3,929	3,979	5,476	6,019	7,782

分析欄

市町村合併後、旧合併特例事業債を活用した大型建設事業に集中して取り組んでいることから、当該事業債を中心に地方債現在高の増加が続いている。令和2年度はこども園空調整備事業や鳳来総合支所等整備事業などの市債発行により地方債現在高は前年度対比605百万円の増加となっている。

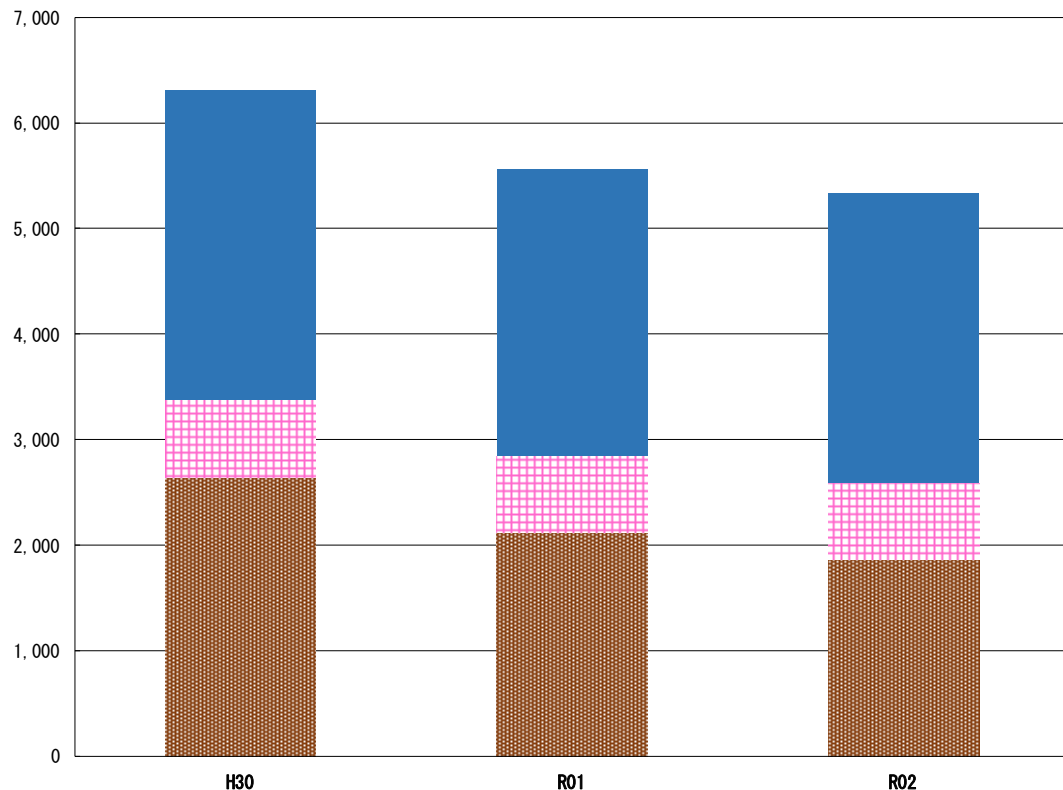
市債発行の際には地方交付税措置のある起債メニューを選択し将来負担額の軽減に努めたが、基準財政需要額算入見込額は1,124百万円減少し、財源調整に伴う財政調整基金取り崩しにより充当可能基金が131百万円減少し、将来負担比率の分子の上昇原因となっている。

今後も市債発行の必要性を厳しく精査するとともに、基金残高にも注意を払い、将来負担の抑制に努めていく。

※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

（百万円）



区分	年度	H30	R01	R02
財政調整基金		2,645	2,118	1,861
減債基金		730	730	731
その他特定目的基金		2,938	2,710	2,737
みんなのまちづくり基金		1,507	1,441	1,393
庁舎等建設基金		899	716	566
ゴルフ場開発地域振興基金		200	200	200
地域福祉基金		201	187	184
新型コロナウイルス感染症対策基金		-	-	155
基金残高合計		6,312	5,557	5,329

令和2年度

愛知県新城市

基金全体

（増減理由）

・令和2年度末の基金残高は5,329百万円で、前年度から228百万円減少している。

・これは令和2年度に新たに新型コロナウイルス感染症対策基金と新型コロナウイルス感染症対策利子補給基金を創設し、新型コロナウイルス感染症対策基金に財政調整基金からの振替により100百万円、新型コロナウイルス感染症の影響により中止又は縮小した事業費を55百万円を積んだことにより、その他特定目的基金全体で27百万円の増加となった。一方、財政調整基金は257百万円減少したことにより基金全体では減少した。

（今後の方針）

前年度繰越金等を財源により可能な限り基金積立を行いたい。公共施設等総合管理計画に基づき今後、公共施設の維持管理経費が増加するが、財政調整基金を取り崩さない財政運営を図っていく。

財政調整基金

（増減理由）

79百万円の積立金及び利子積み立てを行ったが、新城インターチェンジ周辺整備事業に係る用地購入費に235百万円と新型コロナウイルス感染症対策基金を創設する財源として100百万円の335百万円の取り崩しを行ったため、基金残高は前年度と比較し257百万円の減少となった。

（今後の方針）

令和3年度に目標額を標準財政規模の20%となる29億円（財政調整基金と減債基金の計）と定め、実質収支額のうち6億円を超える部分を翌年度に積み立てることとする。また、可能な限り積み立てられる時には積立を行いたい。今後もやむを得ず財源調整のため財政調整基金を取り崩すことが想定されるが、財政調整基金の取り崩しは原則行わないことを基本路線とする財政運営に努めていく。

減債基金

（増減理由）

取り崩しは行わず1百万円の利子積立のみ行った。

（今後の方針）

庁舎建設事業等による後年度の合併関連市債償還額の増加を考慮し、平成25年度に300百万円、平成26年度に200百万円の積立を行ったが、平成27年度からは利子積立のみとしている。令和4年度から公債費負担軽減のため減債基金の取り崩しを行うこととしている。

その他特定目的基金

（基金の使途）

・みんなのまちづくり基金：市における地域住民の連帯の強化及び地域の振興を図るための事業を円滑に推進するための基金

・庁舎等建設基金：庁舎等建設のための基金

・ゴルフ場開発地域振興基金：合併前の作手村の区域(旧作手村)において行われたゴルフ場開発に関し、旧作手村と有楽観光開発株式会社との間で締結された協定書並びに契約書に基づく土地の保全及びコミュニティ活動の推進等地域の発展に寄与するための基金

・地域福祉基金：市地域福祉の推進を図るための基金

・新型コロナウイルス感染症対策基金：新型コロナウイルス感染症の影響による市民生活及び地域経済への対策を的確かつ迅速に実施するための基金

（増減理由）

・みんなのまちづくり基金：2百万円の利子積立を行ったが高速バス運行事業をはじめ、地方創生事業費などにより、50百万円取崩したため48百万円減少した。

・庁舎等建設基金：1百万円の利子積立を行ったが東庁舎改修事業と風来総合支所等整備事業の財源に充てるため151百万円取崩したため150百万円減少した

・新型コロナウイルス感染症対策基金：財政調整基金から100百万円、新型コロナウイルス感染症の影響により中止又は縮小した事業費55百万円を積立て、155百万円増。

（今後の方針）

現時点では積極的に積み立てを行っている特定目的基金はないが、令和2年度に新たに設置した新型コロナウイルス感染症対策基金は、国の新型コロナウイルス感染症対策臨時交付金の対象とならない事業に対して市独自の支援策を進めるため事業に充当する。庁舎等建設基金は、令和2年度から風来総合支所建設事業に充当している。

なお、みんなのまちづくり基金は新城版地方創生の原資であり、地方創生事業の積極的な推進により取崩しが進めば、再度積み立てを行う必要があるものと考えている。